

令和4年度 第2回岡崎市図書館協議会議事録

- 1 日時
令和5年2月16日(木) 午前10時開始、午前11時20分終了
- 2 場所
岡崎市図書館交流プラザ1階会議室103
- 3 出席者
 - (1) 出席委員(7名)
大西裕子委員、赤羽根有里子委員、江良友子委員、山田美代子委員、
浦部幹資委員、小澤孝道委員、加藤善士委員
 - (2) 欠席委員(3名)
柴田悦己委員、平岩ふみよ委員、神尾太資委員
 - (3) 説明のため出席した事務局職員
安藤社会文化部長、鍋田中央図書館長、大村副館長、杉山総務係長、
天野資料提供サービス係長、上川畑情報サービス係長、渡邊主任主査
- 4 傍聴者
なし
- 5 次第
 - (1) 社会文化部長あいさつ
安藤社会文化部長あいさつ
 - (2) 会長あいさつ
大西会長あいさつ
 - (3) 議事
ア 令和4年度事業 経過報告
イ 報告事項
 - (4) その他

6 議事要旨

(1) 令和4年度事業経過報告 事務局から説明

(会長)

事業報告について、何か質問などあれば発言いただきたい。

(委員)

講演会について、私もオンラインで参加し、感想として、大変良かったと感じた。講演会へのオンライン参加のため、音声など心配だったが、画面も音声も非常にクリアで、事前に資料データを送っていただき、講演会前に資料を確認することができた点も大変良かった。

ただ、内容が専門的で難しい部分もあるため、難しいかもしれないが、講演会終了後、2～3日はリピートして観ることができたら良かったと感じた。

(事務局)

講師の先生との取り決めで、アーカイブ配信というのは今回なかったが、今後、このような機会があれば、いただいた御意見も参考にさせていただきながら、検討させていただきたい。

また、講演会当日は、ケーブルテレビのミクスの録画があったため、ミクスが観られる環境であれば、3月にチャンネルおかざきの市民招待席で内容を確認いただけたと思う。

(委員)

職場体験について、うちの大学の図書館にも職場体験ということで実習に来られた中学生がいるが、大学図書館よりも中央図書館の方が職場体験先としては好ましいと感じている。今は違うかもしれないが、その当時、中央図書館は希望が多く、体験するのがなかなか難しいという話があった。実施時期には随時とあるが、積極的に受入れてくださっているのか。

(事務局)

受け入れる人数について、現在コロナ禍ということで、1日あたり2名までと制限している。受け入れる際の学校とのタイミングという部分で、例えば、中学校であれば、2週間の間に職場体験を全部行かせるというような組み方をされているので、学校同志の日にちが重なってしまうことが多く、調整していただくことがある。

また、中央図書館は水曜日が休館日となっているが、水曜日も含め受け入れを希望される学校が多くあるため、学校が希望する日数を全て受け入れることができない場合があるが、可能な限り受け入れさせていただいている。

(委員)

リサイクル本バザーについて、冬の寒い時期は、会議室など少しわかりにくい場所で行っているが、昨年度に比べ、今年度は来て下さるかたも多く、認知度が進んできたように感じる。

本を買われる時にお話を聞くと、このような図書館ならではの本はまず書店では手に入らないため、嬉しい、といった話をよく聞く。ぜひ、続けていけたら嬉しい。

また、読み聞かせについて、コロナ禍のため参加者を5組に絞っている点が少し残念である。お母さんも子どもさんどうしても人数が少ないと緊張された様子で聞いているので、コロナが終息して、たくさんのかたが同時に参加することができ、子どもの声も出てくると、もっと盛り上がると思う。

(委員)

電子図書館サービスの導入の検討について、今年度検討されて、次年度の予算要求がないということは、来年度以降、具体的な検討をする余地があるということか。

また、専任者が必要となると、人員要求という話になるが、それもかなりハードルが高い。

さらに、価格の問題から考えても、予算要求抜きでやっていくことは非常に難しい。1年目はともかく、持続するという意味では困難だろうと思う。

以上のことから、短期間にこれを手がけるというような状況に今はない、という印象を受けたが、それでよろしいか。

(事務局)

令和5年度に導入するかについて、現時点では予定していない。

また、今後の予定についても、コロナ禍の中で財政が非常に厳しいと言われており、新規要求はなかなか通らない現実がある。一度入れてしまうと継続的に予算がかかるため、いざという時にすぐに入れるよう、準備は進めたいが、見通しが難しいのが現状である。

(委員)

課題も多くあるようだが、今年度までに電子図書館を導入している図書館は意外と多い。

私は実際に愛知県図書館で電子書籍を借りてみて、あまりおすすめではないと感じている。

前回の協議会でも館長から、後発だからしっかり検討していきたいとの話があったが、予算もあまりないのであれば、紙の資料を充実させることをしっかりやってく方がいいと思っており、無理に世間の流れに同調するような必要はないのでと感じている。

(事務局)

図書館が提供したい本と実際に電子書籍になっている本にズレがあるため、委員の考え方もあると思う。

ただ、コロナ禍であることと障がい者サービスとして、非来館者サービスの充実を図ることは、図書館として必要があると考えており、電子図書館が1つの対応策になるのではないかと考えている。

当然ながら経費がかかり、また、導入したとしても、電子書籍を増やしていかなければならないため、実際に導入するとなった場合は、すぐにでも実施することが出来るように、先進の自治体などから情報を収集しつつ、すぐに着手できる体制を整えておきたいと考えている。

(委員)

職場体験と図書館見学について、子どもたちが中央図書館を見学できるといいなと思っている。以前、この協議会だったかで、普段は入れないスペースに入れていただいたことがあった。大きな機械でコンテナに入った本が移動していく様子や古文書、レコードなどが保管してある部屋を見せていただき、感動した憶えがある。

例えば、小学生が図書館見学に来る場合は何人、何時間くらいの受入れが可能か。また、バックヤードの部分は見せていただけなのか。

(事務局)

図書館見学の受入れについて、現在の状況は、学年単位での希望が多い。子ども図書室とむかし館を併せて見学される学校が多いが、それぞれのエリアは狭いため、現在、特にコロナ禍ということで、入場制限なども考慮し、1クラス単位で説明をしている。それ以外の、そこにいないクラスは、他のエリア、例えば、河川敷や岡崎公園などをローテーションで回っていただき、来館していただく形で実施していることが多い。

バックヤードについては、どうしても密になるため、現在はちょっと控えているが、要望によっては、さらに人数を細かく分けて、案内することも可能である。

また、時間についても要望に応じて、例えば、短時間で簡単な図書館利用案内を、ということであれば、そのように、しっかりと時間を取っていただき、図書カードを作成して貸出、返却の対応までということであれば、それも可能である。見学の相談を受けた時に事前に打ち合わせをしながら、対応している。

(委員)

他県の事例だが、ある自治体では全小学校に図書館見学を導入しており、それがすごく効果的だという話を聞いたことがある。

見学に行き、利用カードを作ると、家に帰ってからその話をする。そうすると、話を聞いた保護者も次の土、日などに家族と一緒に図書館に行こうか、となり、すごく本が好き、図書館が好きな子どもに育つ、ということだった。

市内の小学生が1度は図書館に見学に来れるようになると、図書館の素晴らしさが伝わると思うので、今後検討していただきたい。

(2) 報告事項

ア 次年度の長期休館予定について

イ 桜まつり期間中の図書館交流プラザりぶら駐車場について
事務局から説明

(会長)

報告事項について、何か質問などあれば発言いただきたい。

(委員)

もう決定事項ということで、それについては、理解しているところだが、桜まつりは毎年開催される。今年は「どうする家康」の関係で、混雑が予想されるため、ということだが、来年度以降、今年うまくいったから、この期間だけは来年度以降も駐車場を閉鎖する、ということはないように配慮いただきたい。

また、なかなか難しい問題であることは理解しているが、この期間についても、障がい者のかただけは駐車場使えるようにするなど、他にも手はあったのではないかと思う。

(事務局)

1点目の来年以降について、今回はあくまで特別、と認識している。ただ、今回の措置はそもそも渋滞対策及び地元のかたへの緊急事態の対策のためにパークアンドライドなど、なるべく市内に車を流入させないという形で考えているが、来年については、今回の状況を鑑みて、市全体として判断することになるのではと考えている。

2点目の障がい者のかたについては、非常に大きな課題であり、施設として空いている限り、何らかの配慮はしなければならないと考える。

今ここではっきりとした回答はしかねるが、御意見は頂戴し、検討していきたい。

(委員)

駐車場開放反対という地元の方々や当事者のりぶらの方々が協議されて、決定されたことなので、従うべきということは重々わかる。ただ、この予約制というシステムとパークアンドライドというものがうまくいけば良いが、

図書館が開館しているのに本館駐車場が閉鎖されている状況に対し、なぜ閉鎖しているのか、停めさせてくれたって良いのに、と感じるかたは多いと思うし、詰め寄られることもあると思う。説明しても、理解を得られるのは難しいのではないか。

(委員)

公共側からすれば、この期間中の図書館利用者数を調べて、これだけ少ないのであれば、来年は駐車場を解放すべきだという議論に必ずなると思う。閉館しろとは言わないと思うが、駐車場を解放しなさい、という話になるのではないか、という懸念がある。

例えば1つの方法として、図書館機能は止めず、ただ、図書館の駐車場を緊急車両の置き場にし、逆にこちらからそれをアピールしていく、という方法もあると思う。

(事務局)

緊急車両については、地元のかたもそうだが、図書館としても開館している以上、救急車等を呼ぶ場合もあるため、緊急車両が来られないというのは困るところであり、その部分については、地元のかたの意見と同じである。

りぶらの東駐車場1・2が予約制になり、それについてはすでに報道発表されたが、本館駐車場をどうするかということは、開けることにしても閉めることにしても、この周辺が混雑することはある程度覚悟しなければならないと考えている。

(事務局)

渋滞のリスクについて、本館駐車場を開けておけば、やはり皆さん駐車したいと考えるので、車が列になってしまい、この周辺の渋滞リスクはどうしても高くなってしまう。

また、地元のかたから、桜まつりに渋滞することについて、ある程度、理解しているが、去年の桜まつりの渋滞は例年に比べて異常だった、という話がでてくる。やはりコロナ禍で行動が抑えられる中、桜まつりが行われたということで、一斉に皆さんが岡崎公園の桜を見にお越しいただき、集中してしまったと感じている。

そうしたこともあり、今回こういった議論が起きて、今に至っていることを御理解いただければありがたい。

(委員)

今年の4月の駐車場の件について、やむを得ないということは理解したし、図書館側が努力された結果、この結論に至ったこともわかったが、やはり、その次以降のことについて、くぎを刺しておく、ということは重要であ

り、この協議会で危惧が表明されたことをアピールしておくことは必要である。

今後、図書館が交渉する際に、図書館利用者の立場はこうだ、というのは強く打ち出してほしい。

(事務局)

利用者の意見を届けられるのは、利用者に接している図書館が一番理解していると思うし、理解すべきだと思っている。今年度は大変申し訳ないが、次回、もしそのようなことがあれば、意見を届ける努力はしていきたい。

(会長)

その他質問などはよろしいか。(なし)

これで議事は全て終了である。